

## 春シラス漁の結果と秋シラス漁の見通し

### (1) 春シラス漁 (2~7月) の結果

県内における今期の春シラス漁は、4月上旬から7月上旬まで続き、2月からの合計水揚量は1,533トン(速報値)の好漁となり、平年(過去10年平均;950トン)を上回りました(図1)。

図2に、本県主要5港(大津、久慈、大洗、鹿島及び波崎)における4月以降の1日1隻あたりの漁獲量(kg/日/隻)と那珂湊定地水温の推移を示しました。今期は、例年より早めの4月上旬からシラス漁がまとまりだし、5月中旬以降は県内各地で漁場が形成され、連日好漁となりました。

本県沿岸域の海況は、黒潮からの暖水波及の影響により、4月上旬以降高めの水温環境で推移し、シラスが本県沿岸域に来遊しやすい環境であったと考えられます。一方、7月に入ると暖水波及が弱まり、シラス漁況は低調で推移しました。

また、今期は昨年と同様マイワシシラスが多く、4~5月はマイワシシラス主体の水揚げでした。

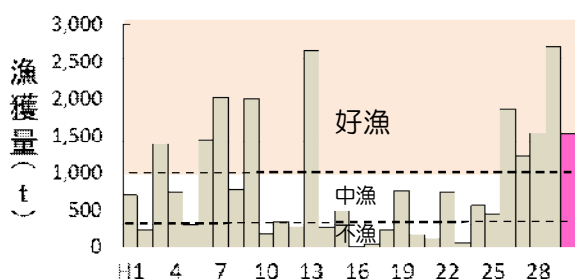


図1: 春シラス漁獲量の推移(2~7月)

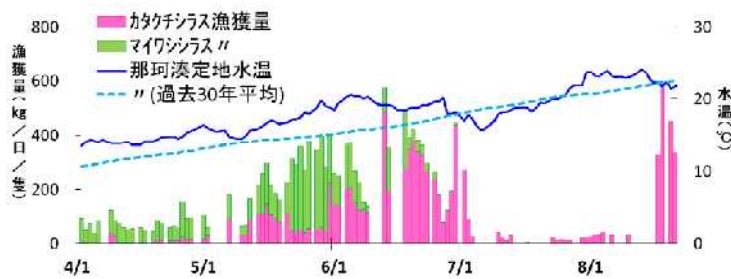


図2: シラス漁獲量(CPUE)と那珂湊定地水温の推移

### (2) 秋シラス漁 (8~12月) の見通し

#### ①カタクチイワシ親魚の資源状況・卵稚仔の分布状況

今後漁獲されるシラスの親魚となるカタクチイワシ資源は、岩手~千葉の漁獲状況から低水準と考えられます。また、7/31~8/1に本県沖(会瀬~犬吠崎)において実施した卵稚仔採集調査および8/20に玉田沖において実施したシラス卵稚仔調査では、カタクチイワシ卵、仔魚ともに平年を下回る採集量でした。

#### ②海況の現況と見通し

現在、黒潮は犬吠崎沖を北東へ流去しており(図3)、沿岸域の水温は「平年並み」となっています。

今後、黒潮は現在の大蛇行流路が継続する見込みで、沿岸域の水温は「平年並み~やや高め」で推移すると予測されています(海況の詳細は「水産の窓30年-No.19」を参照)。

#### ③まとめ

沿岸水温は「平年並み~やや高め」と予測されていることから、シラスの来遊や成育に適していると考えられます。一方、本県周辺海域のカタクチイワシ資源は低水準であり、調査船調査におけるカタクチイワシ卵、稚仔魚の採集量が平年を下回っていることから、本県周辺海域のシラス発生状況は低水準と考えられます。盆明けから県内全域でシラス漁場が形成されておりますが、今後は断続的にシラス漁場が形成されるものの、漁況は次第に低調となると考えられるため、今年の秋シラス期間中(8~12月)の水揚量は、不漁(1,000トン未満)となるでしょう。

(回遊性資源部)

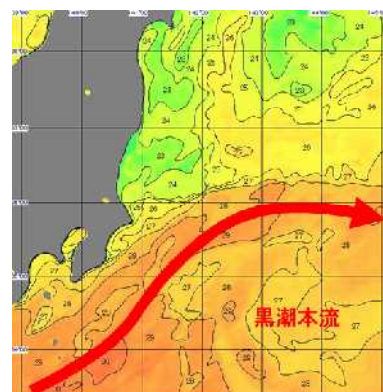


図3: NOAA水温画像(8/15~21合成)